

証券コード 6073



株式会社 アサンテ

第43期
事業報告書

2015.04.01 ▶ 2016.03.31



ASANTE BUSINESS REPORT 2016



トップメッセージ



経営理念実現のため、 事業拡大を着実に 進めてまいります。

代表取締役社長

宗政 誠

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第43期の業績について

第43期におけるわが国経済は、企業収益や雇用の改善により緩やかな回復基調で推移しましたが、個人消費の回復の遅れ、株価や為替の変動などにより、景気の先行きについては不透明な状況となりました。当社市場におきましては、既存家屋の保全意識は依然として高かったものの、消費者マインドの停滞と人材採用の競争激化が、当社にとって逆風となりました。

このような状況下、当社は2015年4月に奈良支店を新規開設しました。また、白蟻防除のトップシーズンに当たる第1四半期を中心に積極的な広告宣伝・販促活動を展開して、新規受注の増加に努めるとともに、既存物件のアフターメンテナンスを通じた白蟻更新防除並びに関連サービスの受注に注力しました。組織面では、人員の採用・育成をより推進するため、人事関連および人材開発部門の再編を行ないました。また、ガバナンス強化のため、2015年6月に社外取締役を増員しました。

こうした取り組みの結果、白蟻対策サービス(白蟻新規/更新防除)売上高が前期比3.7%増、湿気対策サービス(床下等換気システム)売上高が同5.0%増、地震対策サービス(基礎補修・家屋補強)売上高が同6.7%増と、各区分とも実績を伸ばし、総売上高は

同604百万円増の13,273百万円となりました。

一方、施工効率の向上による労務費率の低下とガソリン価格の下落に伴い、売上原価率が0.4ポイント低下しましたが、人件費率の上昇と、求人費並びに減価償却費等の増加により、販売費及び一般管理費率が0.9ポイント上昇しました。この結果、営業利益は前期比32百万円増の2,332百万円となり、経常利益は営業外収益の減少により同9百万円減の2,339百万円となりました。当期純利益は、特別損益が無かった(前期は特別損失20百万円を計上)ことや、税制改正に伴う法人税率等の引き下げの影響により同73百万円増の1,485百万円となり、過去最高益を更新しました。

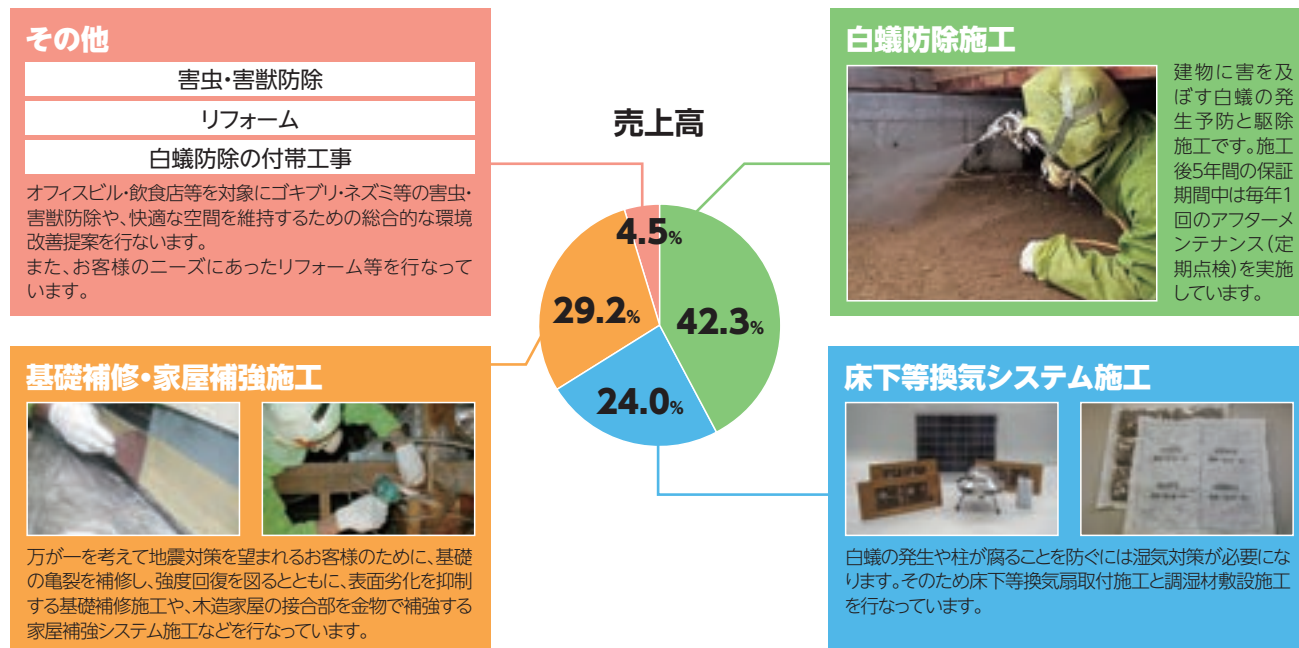
第44期の業績見通しについて

第44期においては、堅強な経営体制と財務体質を基盤として、着実に新規営業エリアの開拓、既存エリアの深耕を図るとともに、認知度の向上並びに既存のお客様とのリレーション強化に努めることで増収を図ってまいります。

農協等との提携においては、昨今の農協改革の流れの中で、収益事業の開拓を模索している農協を中心に、新規提携を推進してまいります。営業活動においては、例年同様、CM放送、新聞折込等の販促活動を積極的に展開します。特に上半期においては、2016年8月公開の映画「ゴーストバスターズ」とタイアップした

事業内容とサービス別売上構成

※2016年3月期実績に基づく



PR活動を展開します。また、日本気象協会とのタイアップ企画として「シロアリ前線」を発信しています。

こうした取り組みにより、総売上高は前期比1,196百万円増の14,470百万円を見込んでいます。

損益面では、前期において、退職給付制度の対象となる従業員の退職率の低下に伴い退職給付債務を再計算した結果、退職給付債務が大きく増加したことに加え、年金資産の運用利回りがマイナスに転じたことで、多額の数理計算上の差異が発生した結果、今期において退職給付費用404百万円(前期は26百万円)の計上を見込んでいます。この影響で、営業利益は前期比164百万円減(7.1%減)の2,167百万円、経常利益は同165百万円減(7.1%減)の2,174百万円、当期純利益は同67百万円減(4.6%減)の1,417百万円と予想しています。

配当予想について

第43期の期末配当金は、1株当たり40円とさせていただきます。今後は、中間配当と期末配当の年2回の配当を行なうことを基本方針とし、第44期の配当金については、中間配当金として23円、期末配当金として23円、年間配当金としては1株当たり46円と予想しています。今期は減益を予想しておりますが、フリーキャッシュフローは増加すると見込んでいますので、その配分として、増配を行ないたいと考えております。

当社は今後も、持続的成長と中長期的な企業価値向上のため、堅強な経営体制ならびに財務体質を基盤として、業容の拡大ならびにサービス品質の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

経営理念・経営計画

経営理念

人と技術を育て、人と家と森を守る

当社は、白蟻対策と地震対策を主軸とした総合ハウスマンテナンスサービスでお客様に「安全」「安心」「快適」を約束するとともに、既存住宅の長寿命化を推進することで、環境を守ることを目指しております。そのために、当社は優秀な人材を育成し、技術の向上を図ってまいりました。

今後とも、当社サービスの品質を向上することで、お客様の満足度を上げてまいります。また、事業展開によって、あらゆるステークホルダーから信頼されるとともに、社会の課題を解決してまいります。

中期経営計画 (2017年3月期～2019年3月期)

現在、中古住宅の流通・活用を促進する計画が国策として展開されています。当社の主力事業は、この計画に合致しており、今後もニーズが高まっていくと見ています。

一方、昨今の消費マインドの低迷が、当社業績の伸びを弱める一因となっていますが、オリンピックに向け、中期的には改善基調が強まっていくと見られます。

しかし労働需給は今後も逼迫が続き、人材確保が厳しさを増すと見られます。

そうした環境の中、当社は中期的な戦略として3つのスローガンを掲げました。これに基づく実行計画を着実に推進し、この3か年で、更なる成長への基盤固めをしてまいります。

中期経営戦略 ～持続的成長に向けた3UP～



営業エリア開拓・深耕のペースアップ

営業エリア拡大に向け、未提携農協等へのアプローチをいっそう強化します。



企業としての魅力アップ

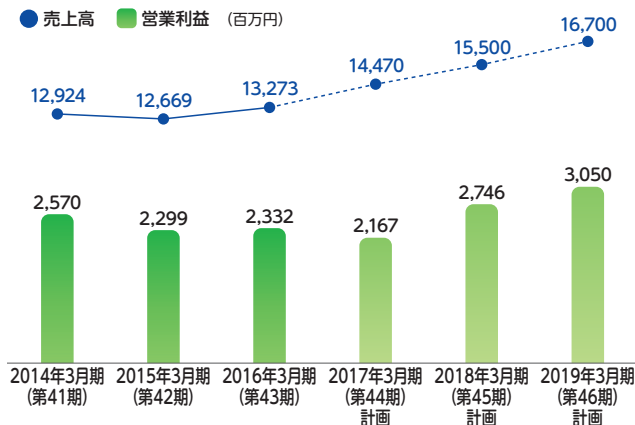
当社認知度の向上を図るとともに、社員のモチベーションをいっそう向上させることで、経営効率を高めます。



経営改革力、企画推進力のパワーアップ

意思決定のスピードと推進力をいっそう向上し、中長期的成長に資する革新的施策を立案・遂行します。

業績目標



トピックス

アサンテは映画『ゴーストバスターズ』を応援しています!

当社は、2016年8月19日(金)公開の新作映画『ゴーストバスターズ』とタイアップ企画を実施しています。企画の一環として、タイアップロゴを用いたテレビCMやチラシ等を作成し、白蟻被害に対する注意を促しています。今年の夏、アサンテはシロアリバスターズとして大活躍!



当社
テレビCM



折込
チラシ



8月19日(金)
ロードショー

30年前に世界中を席巻した待望の大ヒットシリーズが、超豪華キャスト共演で再始動! 理系女子(リケジョ)が新生ゴーストバスターズとして、この夏ゴーストたちをバスター開始!

TM&©2016CTMG, All Rights Reserved.

IRイベント開催情報

- 2015年11月21日(土) 「東京IPO IRセミナー2015」
- 2015年12月5日(土) 個人投資家説明会(静岡県藤枝市)
- 2016年2月26日(金)、27日(土) 「IRフォーラム2016 大阪」
- 2016年5月18日(水) 決算説明会(機関投資家・アナリスト向け)
- 2016年6月4日(土) 個人投資家説明会(広島県広島市)
- 2016年8月26日(金)、27日(土) 「日経IR・投資フェア2016」(予定)
- 2017年2月24日(金)、25日(土) 「東証IRフェスタ2017」(予定)

その他のIRイベント等につきましては、
当社ホームページに随時公開してまいりますのでご参照ください。



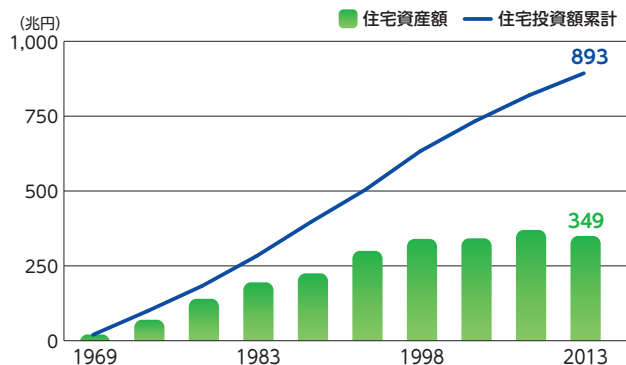
事業環境について

既存住宅活用に向けた課題

近年の住宅政策は、少子高齢化や地球温暖化などの社会的課題に対応するため、住生活基本法(2006年)や住生活基本計画を策定し、既存住宅の活用を推進しています。量的に充足した住宅ストックを活用すれば、建替え減少に伴うCO₂の排出削減、少子化の要因となる一世あたりの住宅投資の負担軽減、急増する空き家の抑制などの効果が期待できます。

しかし、既存住宅活用型市場の柱である住宅リフォーム市場規模と中古住宅流通シェアは、2011年の住生活基本計画で目標値が設定されたにも関わらず、ともに伸び悩んでいます。この原因の一つは、日本が依然として新築中心の業界慣習から抜け出せていないことです。住宅が資産ではなく、一律に経年減価する「消費財」として評価されてきた結果、国民が住宅に投資してきた累計額(1969年以降)に対し、現在の住宅ストックの資産評価額は500兆円以上下回っています(グラフ参照)。この実態が消費者の適切な維持管理や柔軟な住み替えの意欲を削ぎ、既存住宅流通の大きな壁となっています。

住宅資産額と住宅投資額累計



※イメージ図(国交省資料を基に当社作成)

新たな住生活基本計画(2016年3月閣議決定)

今年3月、5年毎の見直しを経て新たな住生活基本計画が閣議決定されました。少子高齢化・人口減少問題に対応するため掲げられた8つの目標のうち、当社と密に関わるものは、「住宅すごろくを超える新たな住宅循環システムの構築」、「強い経済の実現に貢献する住生活産業の成長」です。

住宅購入でゴールという従来の「住宅すごろく」を超えるためには、適切な維持管理やリフォームを施した既存住宅が市場で評価され、資産として次世代へ承継される、新たな流れの創出が必要です。この施策の一つとして、既存住宅の価値の評価基準となる「既存住宅インスペクション・ガイドライン」(国土交通省・2013年)と「中古戸建て住宅に係る建物評価の改善に向けた指針」(同・2014年)が既に示されています。これらの評価項目には「蟻害・腐朽」「基礎のひび割れ」などがあります。これらは構造耐力上の安全性や資産価値を低下させる要因とみなされており、住宅価値を維持するためには対策が不可欠と言えます。

白蟻対策・地震対策を主軸としている当社は、既存住宅の長寿命化と住宅価値の維持に、大きく貢献することができます。国が中古住宅市場規模の倍増を目標としている今、当社事業にも追い風が吹きつつあります。

新たな住生活基本計画(2016年)での目標値

	2013年実績	2025年目標値
リフォーム市場規模	7.5兆円	12兆円
中古住宅市場規模	4兆円	8兆円
賃貸・売却用等以外の空き家数	318万戸 (住宅総数の5.2%)	400万戸 程度に抑制

シロアリプレスセミナーより

2016年4月12日(火)にプレス向けセミナーを開催しました。京都大学の吉村剛教授より、イエシロアリの被害の実態などの貴重な情報をご教示いただいた他、当社研究開発室より、小笠原諸島でのシロアリ生息域調査のご報告を行ないました。

ヤマトシロアリとの比較から見えるイエシロアリの被害実態



京都大学
生存圏研究所・
居住圏環境共生分野
京大博士(農学)

吉村 剛 教授



日本において最も重要な地下シロアリであるヤマトシロアリ(写真右)とイエシロアリ(写真左)では、兵蟻はこの写真のように明らかに形が異なり、ヤマトシロアリの方が大きい場合もあります。しかし、職蟻ではその形は良く似ていますがイエシロアリの方が明らかに大きく、加害習性もかなり異なると言われてます。特にイエシロアリは、被害の進行が非常に早いことと被害範囲が広範囲に及ぶことが特徴です。

被害の激しさには、個体の摂食能力とコロニー(巣)の個体

数、加害範囲が大きく関係します。摂食能力を比較すると、ヤマトシロアリ1個体あたりの最大摂食量は、イエシロアリの60%程度ですが、体重換算では両者とも大きな差は無く、体の大きさの違いという要素がより重要という結果が出ています。

コロニーにおける個体数は、従来ではヤマトシロアリは数万頭で、イエシロアリより規模が小さいと言われてきましたが、両種とも数十万頭というデータも報告されています。

しかし、加害範囲に関しては、イエシロアリは乾燥や低温、高CO₂濃度状態などの環境変化への適応能力も比較的高いため、行動範囲が広く数千m²にも及ぶと推定されます。総合的に見て、ヤマトシロアリとイエシロアリの被害における激しさの違いは、職アリの体の大きさと活動性によるところが大きいと言えるでしょう。

今後、より環境と調和した未来志向型のシロアリ防除システムを構築する上で、これら2種類の違いを正確に理解することはますます重要になると考えられます。

シロアリ探知犬による小笠原諸島でのシロアリ生息域調査

<当社研究開発室 箕浦るん>

2016年2月、小笠原諸島にて当社のシロアリ探知犬によるシロアリ生息域調査を行ないました。

小笠原ではイエシロアリの被害が激しく、1992年から行政が主体となり本格的な対策が始まりました。しかし、山中でのイエシロアリ生息確認作業を人間の力だけで行なうには限界がありました。そこで小笠原村役場は、新たな手法として「シロアリ探知犬」による調査の有効性を検証することとして、2006年からシロアリ探知犬を導入している当社が調査依頼を受けました。

当社のシロアリ探知犬は、小笠原諸島の母島で7日間、計141カ所の樹木を調査し、そのうち4カ所に反応を示しました。現在、シロアリ探知犬が反応した樹木を掘り起こし

て確認作業を行なっています。ここからイエシロアリの巣が見つければ、人間では探知不能であった樹木に対しても調査可能であると実証されたことになるため、小笠原のイエシロアリ調査にシロアリ探知犬を活用していく可能性があります。当社においても、家屋だけでなく地域に生息するシロアリの生息実態調査への活用を検討してまいります。



財務情報

損益の状況

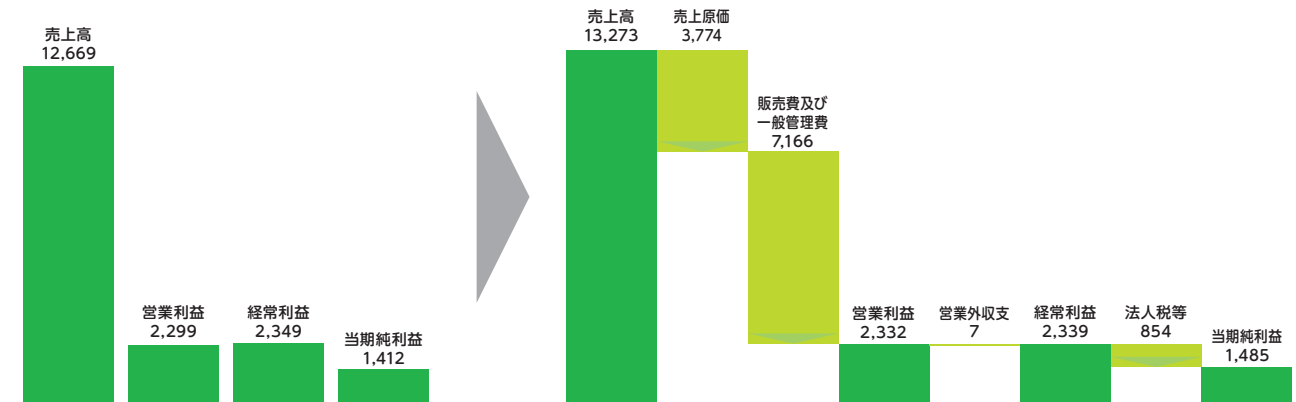
(単位:百万円)

第42期

(2014年4月1日から2015年3月31日まで)

第43期

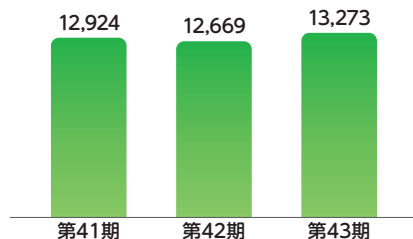
(2015年4月1日から2016年3月31日まで)



業績推移

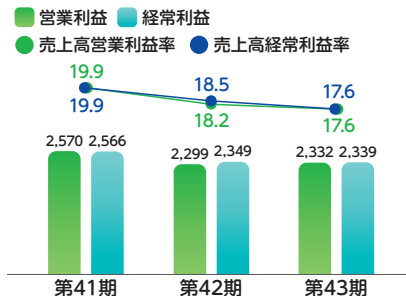
売上高

(単位:百万円)



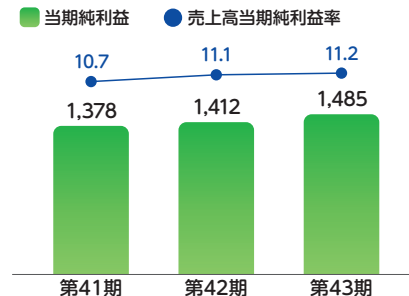
営業利益/経常利益/ 売上高営業利益率/売上高経常利益率

(単位:百万円/%)



当期純利益/ 売上高当期純利益率

(単位:百万円/%)

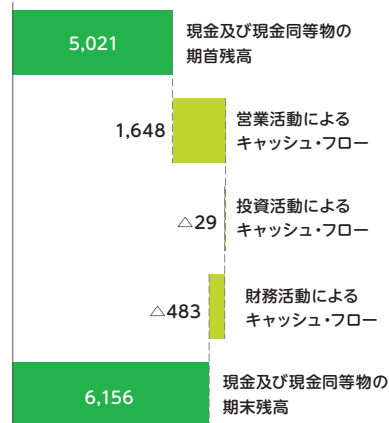
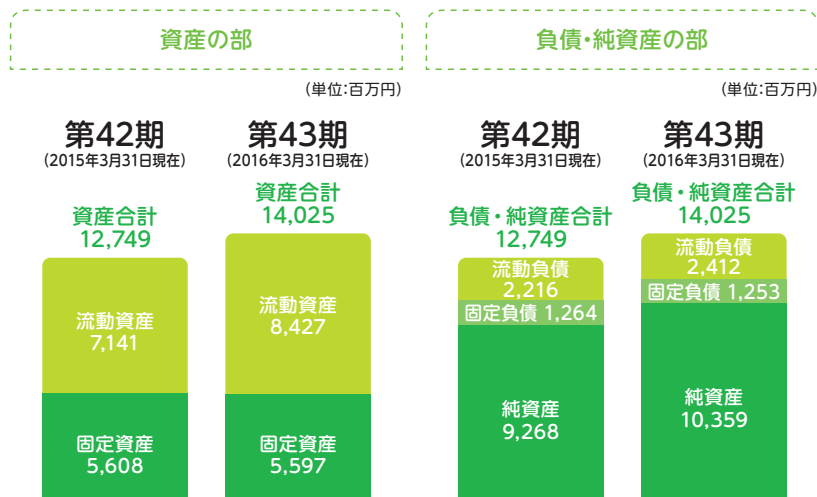


資産、負債・純資産の状況

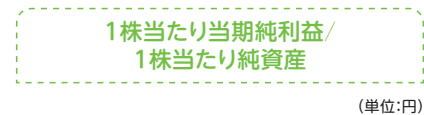
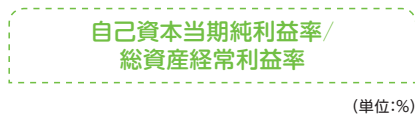
キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

第43期 (2015年4月1日から
2016年3月31日まで)



指標



会社概要

▶ 会社概要 (2016年3月31日現在)

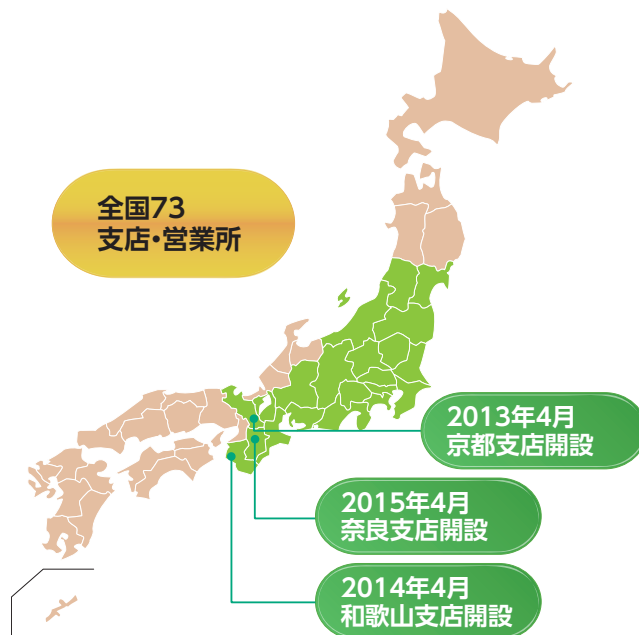
商号 株式会社アサンテ
証券コード 6073
本社 東京都新宿区新宿一丁目33番15号
創業 1970年5月
設立 1973年9月
資本金 11億円
従業員 937名

▶ 営業拠点 (2016年3月31日現在)

- 東北・福島支店(山形・宮城・福島)、新潟支店、茨城支店、北関東支店(栃木・群馬・埼玉)、長野支店、東京支店、神奈川支店、千葉支店、静岡支店(静岡・山梨)、愛知支店(愛知・三重)、岐阜支店(岐阜・滋賀)、京都支店、奈良支店、和歌山支店
..... 【支店14ヵ所、営業所55ヵ所】
- その他 【4ヵ所】
- 合計73ヵ所

▶ 役員 (2016年6月22日現在)

代表取締役社長	宗政 誠
専務取締役	渋谷 健一
常務取締役経営企画室長	飯柴 正美
取締役経理部長	亀山 彰
取締役人事部長	西山 敦
取締役人材開発部長	宮内 征
取締役	内田 勝巳
取締役	堂垣内 重晴
常勤監査役	犬飼 由喜夫
監査役	櫛田 泰彦
監査役	黒澤 誠一



株式情報

株式の状況 (2016年3月31日現在)

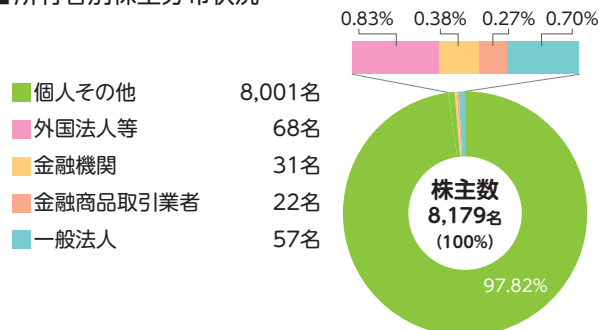
発行可能株式総数 42,000,000株
 発行済株式の総数 12,341,900株
 株主数 8,179名

大株主

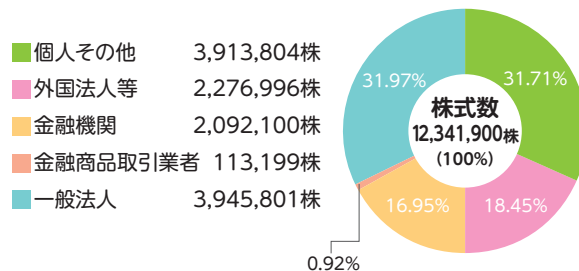
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ムネマサ	3,750,000	30.38
宗政 誠	856,425	6.93
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	608,100	4.92
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リフィデリティファンズ	571,600	4.63
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー 505224	427,100	3.46
渋谷 健一	361,000	2.92
アサンテ従業員持株会	343,775	2.78
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	246,200	1.99
宗政 ヨシ	225,000	1.82
宗政 和美	225,000	1.82

株式分布状況 (2016年3月31日現在)

所有者別株主分布状況



所有者別株式分布状況



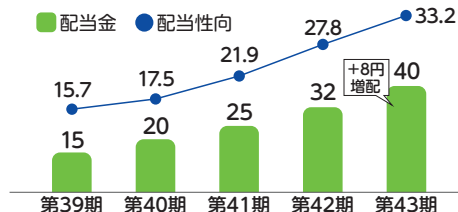
*自己株式68株は個人その他に含めております。

配当政策

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最優先に考え、安定的な配当の維持を基本として配当性向、企業体質の強化及び内部留保の充実等を総合的に勘案することを配当政策の基本方針としています。

2016年3月期の期末配当金につきましては、前期比8円増配して1株当たり40円といたしました。

1株当たり配当金及び配当性向 (単位:円/%)



株主優待制度のご案内

1. 株主優待制度導入の目的

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの株主様に、中長期的に当社株式を保有していただくことを目的としています。

2. 株主優待制度の内容

(1) 対象となる株主様

毎年3月31日、9月30日現在の株主名簿に記録された1単元(100株)以上保有されている株主様を対象としています。

(2) 優待内容

対象となる株主様に対して、三菱UFJニコスギフトカード1,000円分を贈呈する予定です。

(3) 贈呈時期

毎年6月、12月の発送を予定しています。



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
定時株主総会基準日	3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
単元株式数	100株
公告方法	当社の公告方法は、電子公告としています。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載します。 当社の公告掲載URLは次のとおりです。 http://www.asante.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード:6073)
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社

株式会社 アサンテ

東京都新宿区新宿一丁目33番15号
03-3226-5511(大代表)

